

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター秋季号<第53号>(平成14年9月15日発行)

巻 頭 言

人 脈 は 財 産

九州技術士センター会長 町田 貞徳(電気・電子・福岡)

技術士は、非常に難しいとされる技術士試験に合格された方々なので、技術的技量経験は基より、見識・話術とも敬服に値する方々ばかりである。それなりに自分の信念は自信に満ちており、他人の弱点を見抜く力も鋭い。一方、所属グループ、会社関係等の上司・同僚・部下・関係会社社員等との融和、共生等についても、ほとんどの技術士が社会をリードするに相応しい人格を有しておられる。だから、自分の主張も強固である。これが逆に働き、異なる意見者との妥協のゆとりが少ない方もほんの少数だが見うけられる。

私は、技術士試験に合格された新人の祝賀講習会でお話する機会を頂いた場合、その中につきの3つのテーマを必ず入れることにしている。

1つ目は、合格したことに有頂天になり、周りに自慢して廻るな。即ち、技術士試験に失敗した失意の人がいるよ。技術士試験を受けたくても仕事が忙しく受験勉強する時間が無い人がいるよ。技術士資格を取りたいが自分の能力がそこまで無いと諦めている人がいるよ。これらの人々は、技術士に受かったと目の前で言いふらされたらどんな気持ちになるかを考えなさい。ということ。

2つ目は、出身母胎(所属している組織・会社・団体等)と喧嘩別れするな。即ち、技術士になっただけで大きな仕事があると思いきや、所属している会社等を辞めると言い出す人があり、それに対して会社の人から慰留、説得されるが強引に会社を辞めてしまう例があるが、そんなことはするなよ。ということ。

3つ目は、技術士事務所として自立するには3年間位はかかるよ。即ち、技術士として独立してもすぐ仕事がくるわけではない。それなりに準備しPRして世間に認められ、だんだんに仕事が来始めるものであるから、その間の家族の生活費・事業資金の目途をつけて独立すべきだよ。ということ。

そしてこの3つのうち、1項と2項は敵を作るなということであり、3項は独立する時は家族と事業とが維持出来る資金と準備及び他の人の援助が必要だよという案内である。当然のことながら、技術士の仕事は“人と人とのつながり”で達成してゆく。技術・技能1本でゆけるものではない。他の人に自分を知ってもらい、チャンスがあれば紹介をしてもらい、また自分の専門以外のことは教えを乞い、逆に他の人の応援もする。沢山の人のことを知っておればそれはそのまま自分のチャンスが増えるということである。

もっとも逆の例も無いではない。自分の専門とする仕事が無くなり、その原因を特定の人の邪魔立ての為であるとぼやいていた方がいた。しかしよく聞いてみると、仕事をさせたお客さんのほうが、本人のやり方を警戒して2回目の発注をしなくなったのが実状のようであった。その例が重なり仕事をさせるところが無くなったのである。しかし本人はそれに気付いていない。

人脈は財産である。

理科好きの子供を育てよう

九州支部総務委員長 池田 義實（建設・福岡）

先日、会社の恒例の成人病検診があった。最後の講評の時に老医師が開口一番、あなたは煙草吸わないのですね、アア良かった、会社の方は殆どの方が煙草吸っておられるが、煙草は健康に悪い。あなたから皆さんに煙草吸わないように言ってください。日本では今、技術屋が足りなくなっていますから、技術屋さんは体を大事にしてもらいたいです。というような事を言われた。弊社の社名から、社員は皆技術屋と思ったのでしょう。

自分の周りには会社にしろ、技術士会にしろ当然のことですが、大多数が技術屋ですから、技術屋が足りないと言う感じはしません。しかし、医師はあらゆる職業の人を診ている筈ですから、この老医師が言われることは的外れではないと思います。

ではどうして技術屋が足りない状況になってきたのでしょうか。

最近、産業界は自動車、半導体関連、パソコン関連等中国シフトが加速しているようです。中国は人件費が日本の約30分の1と言われているだけに、しばらくはその傾向が続くものと思われます。しかしどこかで歯止めが利かないと、日本の産業空洞化が心配されます。かつて、日本は造船、自動車、半導体等、人件費の安いアジア諸国にそのシェアを奪われて来ましたが、製品の高付加価値化など産業界の努力のより、危機を乗り越えてきました。いままた、超大国中国の目覚ましいばかりの工業の発展により、日本産業は大きな転機を迎えているように思います。ここでも産業界は、過去においてそうだったように、外国にない高品質な製品、革新的な技術による製品を作っていく必要があるでしょう。

最近、産学官共同の研究開発、異業種間提携による新製品開発などが活発に行われるようになって来ました。今までにない新しい成果が期待されます。

こういう先端的な研究開発には、優秀な技術者が不可欠ですが、これを育てる学校側や子供たちの姿勢はどうなのでしょう。それに付け思うのは、義務教育の週5日制への移行です。ゆとりある教育と

いうことで、子供たちの自由時間を増やしていますが、それでよいのでしょうか。近年、科学技術の進歩は非常に速くなっています。少なくとも子供たちの学ぶべき事柄は、大幅に増えているはずです。われわれの学生時代には、DNAもインターネットもありませんでした。ですから単純に考えると、子供たちの勉強時間は増えそうなものです。あるいは、専門的なことは、はしょって教えるカリキュラムになっているのでしょうか。それにしても、何もいま学校での学習時間を減らす必要があるのだろうか、疑問に思えてなりません。

また、懸念されるのは若い世代に「理科離れ、科学離れ」があるという事です。子供たちは山や川など身の周りの自然現象に好奇心を抱き、その不思議さに探究心を起こす事はないのでしょうか。また、衛星打ち上げやロボットなど、科学技術の成果に目を瞠ることはないのでしょうか。若い世代の科学離れが無くならない限り、優秀な技術者など望むべくもありません。

子供たちの理科離れの原因として、少子化の影響、技術者に対する社会的評価の低さ、原発事故や地下鉄サリン事件など科学技術の負の側面に対する社会的不信感の存在、等々があげられています。しかし科学技術は、人類の未来にとって無くてはならないものです。大人社会は、こうした様々な原因を一つ一つ解決して、子供たちが理科好きになる環境をつくっていかねばなりません。技術士もその一役を担っていききたいものです。

最近、地域で子供自然教室とか、手作り教室などが開かれるようになり、喜ばしい事です。本来、大人も子供も自然とのかかわり、自然の中での遊びは好きなのはです。理科好きの子供たちを育てましょう。

いま人類は、地球環境、エネルギー問題、生命科学、など解決して行かねばならない大きな問題を抱えています。優秀な科学技術者の誕生が待たれるところです。

平成14年度第2回理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛（農業・福岡）

7月10日（水）開催の平成14年度第2回理事会について、主な事項を報告致します。

なお当日は台風6号の影響で往復の航空便の選択、遅延に悩まされたが、やっとの思いで、会議出席が叶いました。悪天候の為か、欠席理事がいつもより多く6名もありました（この他欠席監事1名）。

前回議事録の確認に引き続き議事に入る。

1）審議事項

①役員選挙に関する細則等の改定について

資料に従い、溝邊政策委員長（副会長）説明があり。推薦人を20名（現行10）とし、会員1人が推薦できる候補者は1名とする、これらを各部長又は支部長により確認を受けた者を候補者とする事、更に当選者の最小得票数を50（現行30）とする改訂案。

19部門代表理事の中、少人数支部の理事から現行通りにすべき意見や各支部代表理事からは内容に曖昧な点多しとして、改訂をするなら抜本的な改正まで熟慮すべきだとの意見も多出した。私は九州支部長はじめ幹部各位と相談の上、「役員選挙に関する細則等の改訂について一九州支部の意見」と題して支部の考えを全員に配布して詳しく説明をし、中途半端な改訂を取り止めるべく迫った。

しかし正副会長から「近い将来の部門見直しの際の大改正を考慮し、今回この程度の改訂を行わせて頂きたい」との意見が出され、これに従った形での採決となり、賛成14反対9で了承となった。

なお、九州支部の意見文書が提出された事を議事録に記載する事が決まった。

②役員等の任期制に関する細則等の改定について

「理事及び監事の任期を通算2期4年」として若返りをしようとの意図からの提案であった。「再選を妨げない」となっている定款に違反するという意見や「役員人事に硬直化は起こっていない」「任期制と若返りは直接的には関係ない」「2期を過ぎて在任した理事の数はこれまで10年間でも僅少である」

「申し合せ事項なら判るが、所謂ウラの話をおモテの細則に入れるべきではない」等、反対意見百出。採決により取下げとなった。

③特別委員会の設置について

災害対応調査委員会の継続組織案について溝邊政策委員長の趣旨説明があり、大島災害対策調査委員長の前年度災害対応調査委員会報告書説明があった。災害対応特別委員会の設置が承認された。

④参与の委嘱について

6月30日付で家庭の事情（御家族の介護専念）により退任した松永常務理事の業務代行として、会長から参与の委嘱提案があり次の方が了承された。大谷邦博（59才・元日本科学未来館秘書室長）

⑤その他

日本工学会に設置されたPDE協議会への事業協力、常設委員会・調査委員会の委員委嘱追加と退任等があり了承された。

2）報告事項

①平成14年度技術士第二次試験受験申込者数

19部門計：50,126名 第20部門：13,406名

②プロジェクトチームの設置について

西川業務委員長から報告あり、次の2チームが新設された。

技術者倫理研究会（連絡先：杉本泰治、FAX 0424-61-3877）

溶接接合研究グループ（連絡先：神戸良雄、FAX 045-351-2309）

③第29回全国大会開催の説明あり

期日：平成14年9月24～26日

会場：長良川国際会議場

詳細：月刊「技術士」8月号に掲載

④その他5月末会員数等

会員：9,446名（3月末から299名の微増）

準会員A&B：1,794名、賛助会員：263社

昨年の当選就任以来、7回目の理事会でした。理事会は技術士会と会員技術士の地位向上の為に、大切な審議機関ですが、残念ながら、ややもすれば些事に無駄な時間を費やす議事進行の稚拙さがあります。これが改善にも引続き一層微力を尽くす所存です。

平成14年度第1回支部長会議報告

九州支部支部長 田中 穰治（経営工学・福岡）

7月5日平成14年度第1回支部長会議が、中部支部主催で、本部会議室で行われた。

議事内容

1. 会長挨拶：

1)定時総会協力への謝礼、2)技術士の社会への浸透に対する工夫、3)広報活動に関する工夫必要、4)技術士受験者増加に適切な対処と、出題ミスに対する細心の注意が必要、等が述べられた。

2. 副会長挨拶

溝邊副会長：定時総会協力への謝礼

安藤副会長：1)広報活動にIT化の推進、2)技術士会運営についての意見を期待、が述べられた。

3. 松永常務理事退職挨拶

4. 議事

4-1. 前回の議事録の内容確認：異義なく了承

4-2. 支部組織に関する事項

北海道支部：技術士合格者全員が入会する建前となっている。札幌に85%が在住。
CPDの地方在住者に対する便宜を図る必要がある。

東北支部：平成15年に東北技術士協会は解散予定。東北地方有資格者は1200名内600名が宮城県に在住、250名が本部会員。
支部活動と各県技術士会とのコミュニケーションで問題はない。

北陸支部：技術士の任意組織の切崩しを検討中。
各県技術士会を独立させることを狙う。

中部支部：各県によって技術士団体の形態が異なる。静岡県は協会の勢力が大きい。

中部での本部会員は900名、愛知県在住者は450名で約3分の1が実質活動中。

近畿支部：中部支部と性格的に類似。各県の技術士会の連携に乏しく、県別組織の成立は諦めている。

中・四国支部：各県技術士会の活動は活発だが、会員数や会費等に差が大きく足並が揃わない。これ等を踏まえ改善に努力中。

九州支部：支部全体で有資格者は2,000名余、内67%が福岡県に集中、本部会員は640名中400名が福岡県に在住。

支部内を7県8地区に分け、各地区に代表幹事を置き活動中。九州技術士センターは九州支部が設置される以前から存在、それなりの役目を果たしてきた。

4-3. CPDに関する事項

九州支部：九州支部におけるCPD活動状況と問題点について発表。支部所在地以外の実施は講師や旅費の面で問題が多い。各地区ではいろいろ工夫し、NPOや大学と共催している所もある。

東北支部：修習技術士への参加を呼掛けている。

4-4. 本部行事に関する事項

(1)産学官合同セミナー

近畿支部：テーマに原則的なことは出来ぬか。

例えば、1)シーズ 2)ニーズ 3)技術の明確化と再評価に関する話題等。

北陸支部：産学官セミナーの狙いは、官への技術士の売込み、業務開発の手段として開始された。その精神さえ活かされれば特にルールを決める必要はない。

北海道：各支部一任で良い、枠を作る必要なし。

(2)全国大会、産学官合同セミナー開催予定

①全国大会：平成15年度…近畿支部

平成16年度…北海道支部

②産学官セミナー：平成14年度…東北支部

平成15年度…北陸・近畿各支部

平成16年度…北海道・九州支部

4-5. 業務斡旋に関する事項

前回、九州支部より提案のあった公共工事監査に関し監査技術プロジェクトチームが結成された。地方における工事監査は技術士会本部で一括して契約を結び、実務は当該支部チーム員が行い、報告書は技術士本部を通じ提出する。料金は全国一律とする。

4-6. 会員活動に関する事項……（略）

4-7. 支部運営に関する事項

九州支部：IT推進に関し、取組みの概要について説明した。

5. 報告事項、その他等……………（略）

「流域における暮らしと生態系の保全」技術研修会

九州支部技術士継続教育（CPD）委員長 内山 順治（林業・佐賀）

標記研修会は、平成14年5月15日、福岡市博多区パークホテルで13時から17時まで開催された。盆に発生したエルベ川大水害。川と暮らしは、人類普遍の技術課題である。

開催経緯

河川法が改正され、法目的だった治水、利水に新たに環境保全が加えられてから、河川管理の考え方と対策は激変している。その要旨は、生態系や治水など個々の観点から川を捉えるのではなく、暮らしと土地利用、生態系を含む流域全体として、いわば川をトータルに把握し対処しようとする展開である。

また、流域に生きる市民の考え、川に密着した市民生活の歴史に学び、その体験と土地利用を取り込んだ、川に直面した街づくりを計画、実践し、地域の活性化に成功した事例も増えている。

これらの思想と活動展開の国内有力キーパースンと目される島谷幸宏さんを、今回、九州地方整備局のご好意により研修講師に迎えることが出来た。講師並びにお世話いただいた関係各位に深く感謝する次第である。

講師紹介

島谷 幸宏（しまたに ゆきひろ）氏。1955年山口県生まれ。九州大学工学部卒。現国土交通省九州地方整備局武雄工事事務所所長

建設省（当時）入省以来、現場と研究所を往来して河川の問題と取り組む。特に土木研究所在任中に生物生態系中心の研究に従事。全国各地の市民の川を取り込んだ暮らしの街づくり、河川環境の向上活動に参画。市民、自治体、コンサルタントの良き相談相手である。

現在、9月に佐賀で開催される九州河川市民の集い、来年3月京都で開催される世界水フォーラムに繋ぐ、世界水フォーラム佐賀を開催すべく、九州地方整備局が提案、佐賀県、佐賀大学と準備活動中で、既に佐賀水と森を考える会と共に、佐賀市水循環マップを武雄工事事務所職員と共に指導作成中である。

また流域の視点から「川のシステム」を再自然化する自然再生事業（新規河川事業、全国15箇所）の一つとして、松浦川流域相知町あざめの瀬に市民の意見を主体に計画、施工中である。（九州では宮崎県友内川と共に2地区実施）

主な著書 「水辺空間の魅力と創造」（共著 鹿島出版会 土木学会著作賞）

「河川環境の保全と復元—多自然型川づくりの実際」（鹿島出版会）など。

研修内容

豊富な写真と図画映像で平易に説明された。（当日の配布資料からも補足説明）

第1部 流域におけるエコテクノロジー

1) 河川における防災システムの新しい流れ：流域の暮らしと自然を保全する河川計画を、市民の意見を主体に取り入れて企画する。歴史的に、洪水コントロールの力が弱かった祖先の知恵、工種、工法を未来に活用する。出水を流域で受け止め、河川の氾濫を許容した治水、多重堤、霞堤、遊水地、氾濫原、湿原、河畔林、流域森林の保全、これらを取り込んだ流域都市造りを考える。（宇治川と平等院、吉田川の湿地と2線堤防、宮崎北川の霞堤、青森県大畑川の流域市民参加）

2) 水質の悪化した遮水砂防ダムの貯水をスリットダム化し水質浄化（山形県小国町）

3) 屈曲した自然の川を基本形に水防を考え、多様な流水環境を保全する。（境川）

4) 市民の意向を採用、河川敷の森林樹木は極力残す。（神奈川県境川）

5) 技術者は市民の意見を、技術情報に編成し共有、市民参加の河川計画をたてる。

6) 河川を生かした街並造り、観光組織を構築し、地域活性化に貢献（松江市掘川）など

第2部 事例研究：九州における環境保全の実践と解説

1) 淀川河畔地区の景観保全のポイント：視野に見えるコンクリート構造物の幅と面積を縮小、視野植

物空間を拡大し成功。構造物の色彩の配列と組み合わせにも注意する必要がある。

2) 北川激特事業の先進的な川づくり。

3) 環境情報図とは何か：生物生息行動情報の入った河川ハザード地理情報図など。

4) 貫川あるいは紫川における多自然型川づくり。北九州市の多自然型川づくり。

5) 遠賀川河口堰の景観設計：視野河川の構造物の色調の変化と移行配置に苦心。

6) 松浦川における自然再生事業：市民と公開討議を重ね、市民の意見を具体化し、①流域の川のシ

ステムを再自然化する。②自然の反応を見ながら、順応的段階的に計画に反映し事業をすすめる。③事業計画・事業実施・事業後の管理は、NPO、関係機関との意見交換、協同、連携的に積極し進める。これらは多様な湿地環境の再生、旧河道活かし蛇行河川を再生、河畔林を再生。河口干潟を再生。多様な生物の賑いを回復。自然の恵み豊かな川辺の暮らしを回復するのが目的。東大鷲谷教授の働き掛けで創設。

その他、ヨーロッパの小河川の土砂石礫自然流下による自然河道形成の手法の紹介があった。

海外業務促進講演会から

支部業務開発委員会委員 古川 博（建設・福岡）

海外業務促進講演会が平成14年7月20日に、本部海外業務促進実行委員会のCPD地方講座として、支部業務開発委員会主催で開催された。

基調講演は、九州経済産業局国際部国際課長緒方富幸氏の「国際経済の動向—九州から近隣諸国に向けて—」。続いて4氏の講演があり、まず、国際協力事業団（JICA）九州国際センター所長山口三郎氏から「日本のODAとJICAの技術協力事業—技術士に何を望むか」。つぎに中華人民共和国駐福岡総領事館領事瀋徳富氏（科学技術担当）、および駐福岡大韓民国総領事館領事呉姪妹氏（経済担当）から、「日中」「日韓」それぞれの「産業協力と技術士への期待」を、最後に本部海外業務促進実行委員会委員長友正治氏から「海外業務の推進と今後の方向」について最新の情報提供があり、午後の4時間余り、盛り沢山な、内容的にも中身の濃い講演があった。本部3名、中国支部2名を含め81名の参加であった。以下参加した感想、意見を綴って見た。

10年来の製造業空洞化、国力の凋落と裏腹に、隣国中国の勢いが極めて目立ってきている今日、日本の海外業務の焦点は中国にシフトされている感が強い。なかでも九州は歴史的にも韓国を含めて中国とは深い関係にある地域であって、東アジアが21世紀の世界の中心になっていく状況のもとで、九州は日本の中であって最もその影響化の中で生き続けることが出来る地域であり、また人種的にも両国に通ず

る多くの人たちが九州に住み、国境を越えた求心性を覚える地域である。

九州経済産業局が主導で進める環黄海経済圏、中国（上海や北京が入る）韓国の西側、九州全域をエリアとする地域は、今後の発展が大変期待される地域であって、その3国の代表者による第1回協議会が九州で昨年開かれている（今年は韓国で開催予定）。そのなかで、科学技術交流も大きなテーマになっており、日韓中の経済圏に属する技術士（エンジニア）の参画する時もくるであろう。わたくし達技術士は、グローバルな時代にその感覚を磨くことが今日求められていると思う。

韓国とはFTA協定（自由貿易）の推進が両国の課題になっている。また九州とはITに強い韓国南部とのIT技術交流、マッチングが望ましいとの呉領事の勧めもあった。また、中国、韓国の両領事からは、ともにわたくし達技術士への期待の言葉があり、総領事館を通じた接触は今後更に密にしていかなければならないと考える。今まで技術士の海外業務の主体はODAを通してであり、東京中心の情報で、九州では一部を除き皆無に等しかった。減速経済下ODA予算の削減、JICAの独立法人化の中であって、その事業の内容も、援助国での合意形成、地域自治体の参画、NPO等も絡んだ方式が検討され、押し付けの援助からその地域にとって有効な支援のあり方が問われるようになってきている。海外ボランティアで派遣された青年達が「大変学ぶ事が



基調講演 緒方課長（九州経済産業局）



山口所長（JICA）



潘領事（中国）



呉領事（韓国）



長友委員長（本部）

多かった」と語る山口九州国際センター所長からの紹介は、わたくし達が海外業務をする上での姿勢を問われているように思える。

会を締めくくる長友委員長のコメントは、わたくし達技術士にとって今後の方向をさし示すように思えた。「ODA案件に対するプロポーザルの事前評価」は外務省を通して進められている。「行政機関が行う政策の評価に関する法律（行政評価法）」が昨年6月成立し、今春から実施されている。その行政評価法は旧建設省、農水省等の事業主体が消極的であるが、地方自治体での取り組みが望まれる。ま

た、現在外務省関係の事業が国際的な関連で進められており、その事前評価の場面に技術士の活用が高まっている。評価、監査業務は本来、技術士の天職的業務とされている。時代の大きな変化の渦の中で、技術士が本来あるべき業務をなし、技術者倫理にのっとり、公益に根ざした業務を通して社会に貢献する。その様な時代を迎え、海外業務は技術士にとり、コンサル業務としてふさわしい。とくに日本における九州の地位向上、情報の増大とあいまって、九州での技術士の海外業務の増大、創出が進められなければならない。

海外業務についての

アンケート

主催した支部業務開発委員会では、この講演会受講者にアンケートの記入をお願いしたところ、36枚（44%）の回答があった。その集計から、海外業務に対する考え方で目を引く事項を拾い出してみる。

- ①海外出張業務に参加したいが24、希望なしが9
- ②海外滞在期間が長期（1ヵ月以上）でも参加可能が11、短期なら可が11、どちらでも可が2
- ③国内で支援業務をしてもよいが28、参加したくないが2
- ④意見、希望としてつぎの記載があった。

- ・JICA専門家登録をしている。専門家派遣のルートについて自ら接触することは困難か。強く希望するので、手順があれば知らせたい。
- ・ODAにはボランティアが重大な役割を果たしていると感じた。そのルートは多岐にわたると思う

ので技術士会として対応を図るべきではないか。

- ・発展途上国への技術支援、及び自己のスキルアップを図りたい。インフラの整備、とくに上下水道の普及は人民の生活レベル向上に必須と考える。
 - ・個人ベースでは海外業務を実現するのは困難。技術士会の組織力で、海外における技術者のニーズの収集と日本技術士の紹介が期待されている。
 - ・現在は技術を含めて、日本の会社との間の貿易等で仲介や紹介などの仕事をしている。
 - ・平成15年頃に企画予定の「シニアボランティア説明会」にも出席したい。
 - ・スペイン語圏に特に興味を持っている。
 - ・英語を少し。評価についての研修企画を願う。
- などなど。

建設的な回答が多く、長期、短期の海外業務可、国内での業務支援可の数字は、支援組織作りが可能なことを示している。今後は海外現地密着型の方向で海外にでる方々の役に立つ企画が望まれる。

（支部業務開発委員長 松尾憲一）

部会報告

第三部会技術講演会

時代に即応した

エンジニアを目指す

第三部会長 和田 洋二（金属・北九州）

経済のグローバル化とIT化にともなう大競争時代の潮流は、一つには、政府が喧伝する「構造改革」、「規制緩和」という形で、私たちを取り巻く環境を大きく変化させつつある。改正技術士法の施行による技術士資格の国際化あるいは、CPD制度導入などもその一つの例といえる。

このような状況の中で、時代に即応した、あるいは、望むらくは先取りできるエンジニアとしての技術士の果たすべき役割はますます重要になってくると考えられる。

さて、当部会では、少なくとも時代に即応したエンジニアを目指すという目的意識の下に、H14年7月13日、今年度第1回の技術講演会を開催した。

今回は以下に述べるように技術士お二方の講演を、会員10名の出席を得て拝聴した。

ハードフェーシング技術の動向

（金属部門：永吉英昭 氏）

講演者によると、背景として、ダイオキシン・二酸化炭素排出規制、地球温暖化といった地球環境問題、および、製鋼メーカー国際競争激化という経営環境があり、これを要因として、ごみ焼却燃焼温度高温化、自動車燃料完全燃焼化、圧延ロールなどの高寿命化の要求が生まれた。そして、“高耐熱性・耐

食性・耐磨耗性材料の開発ニーズ”に応える技術として“ハードフェーシング技術”があるとのことだった。

ハードフェーシング技術として「PTA」、「溶射」、「連続注入クラッド（CPC）法」の紹介があり、それぞれについて具体的な製品例（講演者勤務先の商品）を挙げて詳細な説明がなされた。特に、「クイックスプレッド方式による耐磨耗性ライナー」、CPC法と熱間鍛造技術を組み合わせた「CPC鍛造技術」を実用化したハースロールは、大変興味深かった。

ステンレス鋼溶接部の微生物腐食とその解析

（金属部門：安西敏雄 氏）

講演者が十年来取り組んでこられた「微生物腐食」というテーマについて、経験談を含めて、メンテナンス技術を絡めたホットな情報の紹介があった。

微生物腐食は、通常の塩化物イオンによる孔食における腐食反応と同じであり、微生物はその反応速度を速めているに過ぎないとのこと。したがって、微生物腐食と断定するためには、通常の腐食の解析法に加えて、微生物の確認・特定さらには再現試験での腐食現象の再現といった生物学的アプローチが欠かせない。さらに、自然界に存在する微生物を取り扱うため、通常の解析手法に比較して長期間を要し、お客様であるエンドユーザの問題解決要求に対して即応することが難しく、また、コストも余分にかかるのが実情である。

問題解決の迅速化のためには、何よりも業界をあげた微生物腐食事例のデータベース化が大いに望まれるとのことだった。

JR九州小倉工場見学記

田辺 努（総合技術監理・機械・北九州）

7月4日、北九州地区主催でCPDの一環としてJR九州小倉工場（以下小倉工場）の見学を行いました。また、当日は軌間可変電車（以下GCT：Gauge Change Trainの略）が小倉工場にいるということで、GCTを見学することも今回の目的でした。平日の暑い中にもかかわらず、福岡地区の方も含め

多数（28名）の参加者がありました。私は、JR九州に勤務している関係で、見学に参加するとともに見学の窓口を努めさせていただきました。

GCTは新幹線と在来線を直通運転可能にすることを目的として、平成6年から開発が始まり、鉄道建設公団が主体となり鉄道総合技術研究所が実際の開発を行っている車両です。その名の通り左右の車輪の間隔を変えることが可能な構造となっています。軌間可変車両は、動力を持たない客車ではスペインの「タルゴ」で実用例がありますが、電車方式ではまだ実用例はありません。GCTは電車方式であるためモータや動力伝達装置の構造に工夫が必要とな

ります。開発の状況としては、3両編成の試験車両を製作し、米国のコロラド州のプエブロ試験線での耐久走行試験（約60万km）を終え、日本国内での走行試験を始めたところです。GCTは技術士諸氏の興味を強くひいたようで、見学の際ピット線で車両の床下に入ってなかなか出てこない方もいました。最も気になるのは実用化の時期ですが、高速（250km/h以上）で走行することもあり、まだ数年はかかりそうとのことでした。

小倉工場は、明治22年（1891年）に発足した歴史ある鉄道工場です。北九州市小倉北区金田町にあり、敷地は13万㎡、年間500両近い車両の検査・修繕を行っています。また車両の新製や改造工事、海外技術協力等も行っています。北九州市は産業観光都市

であり小倉工場は協力事業場に指定されており年間3,000人近い見学者が訪れます。年に一度地域の方々との交流のため「工場まつり」も行っています。最近、ISO14001及びISO9001の認証を取得し環境管理や品質管理の向上も進んでいます。今回の見学では場内を一周し、台車、車体、エンジン、パンタグラフ等の作業場を見ました。

見学後活発な質疑応答を行い、小倉工場に関する質問には工場長みずから対応していただきました。GCTに関する質問には鉄道総合技術研究所でGCTの開発に携わっておられ、技術士でもある高尾氏に対応していただきました。最後に見学者の代表として泉館副支部長が挨拶で、鉄道の「重厚長大な」技術をみせてもらったとの感想を述べられました。

第8回 西日本技術士研究・実績発表年次大会参加者募集案内

九州支部 事業委員会

（社）日本技術士会九州支部の主催、近畿、中・四国支部の協賛、九州経済産業局、北九州市、（財）北九州産業学術推進機構の後援で、今年10月18日（金）～19日（土）に開催します。テーマは「循環型社会の形成に取組む技術士の活動」。CPD継続教育該当事業です。（CPD証明書は当日受付でお渡しします）
会員の方々、多数ご参加ください。（但し見学会は50名締切）

大会スケジュール

10月18日（金）

見学会：13：00 JR小倉駅北口集合

北九州エコタウン（家電リサイクル工場）、北九州学術研究都市見学

懇親会：18：30 小倉チサンホテル
（希望者は同ホテル宿泊）

10月19日（土）

大会：9：00受付開始、10：00開会

会場・（財）北九州産業学術推進機構（北九州市若松区ひびきの2-1、TEL093-695-3111 JR折尾駅西口から北九州市営バス15分、タクシー1,500円）

①記念講演10：40～12：00 学術情報センター
「エネルギー・環境制約下での
発展のための環境工学」

北九州市立大学国際環境工学部教授

浅岡 佐知夫先生

②分科会13：00～16：30 産学連携センター
第1・2・3分科会で、それぞれ7課題の研究・実績発表が行われます。

参加費

大会参加費5,000円、懇親会費5,000円、宿泊費8,500円（チサンホテル、朝食付）見学会無料

参加申込み

見学会、懇親会、宿泊、大会の参加は、一括して下記が受け付けています。

“ジョイロード北九州団体旅行店”（担当者・前田創之）TEL 093-551-1576

FAX 093-531-5519

E-mail：kitadan.joy@jrkyushu.co.jp

（九州支部では取り扱っていません）

なお、大会実施担当者は九州支部事業委員長甲斐忠義です。

地域活動

北九州

最近の動き

代表幹事 是永 逸夫（総合技術監理・機械）

平成14年度も月例技術研修会を中核に活発な活動を進めています。以下に概要をご紹介します。

昨年に引き続き、総合技術監理部門学習会を開催しています。5月から9月まで5回の開催です。月例会開始前の1時間に、昨年合格の先生方がボランティアで自分の体験論文や反省事項、勉強方法等を紹介しています。又、昨年収集した文献や資料に加えて、新しく発行された受験情報や総合技術監理分野の文献を収集し、学習会出席者に配布して内容を概説しています。今年も一丸となった学習会を通じて高い合格率を達成できるものと確信しています。

次に、技術講演ですが、CPD継続教育への協力の意味を含めて毎月2件の発表を行っています。北九州地区の特徴として、多岐分野に亘った発表希望者

が多く、来春まで予定が決まっています。又、最近若手技術士の出席者が増えていますが、ベテランの先生方の業績を知る機会が少ない状態です。これに対処する為に、ベテランの先生方に卓話をお願いしています。今年1月から既に4件の発表がありました。今後とも気軽にご自分の経験等の発表をお願いしたいと思っています。

月例会の出席者は他地区からの出席も含めて、増えており、毎月40名を越す会合になっています。技術士補の方も熱心に参加されています。初参加の方は自己紹介していただき、終了後の懇親会にも積極的に参加願っています。

先月は懸案であった企業見学会を実施することが出来ました。JR九州のご好意で新幹線と在来線の両方を走れる実験車両と工場見学をしました。

秋には西日本技術士研究業績年次発表会を北九州で実施することになっており、益々活発な活動が出来ることを期待しています。

北九州地区以外の先生方も月例会に気軽に参加されることを歓迎いたします。

長崎

活動の問題点

代表幹事 山口 和登（応用理学）

長崎における活動、たとえば研修会や勉強会などを開催する場合、まず問題になるのはその地理的条件より何処で開催するかである。

長崎県は地理的に南北に長く、壱岐、対馬や五島の離島を抱え、かつ中心都市も北の佐世保、南の長崎と大きく分かれている。佐世保と長崎間はいかなる交通手段でも2時間は見ておく必要があり、両都市から博多への方がよほど便利がよいという条件である。県内の技術士の大半は佐世保地区および長崎地区そして県央の諫早地区に在住しており、一部他の地区に在住している。この為、前述した問題が発生する訳である。

去る8月3日に総合技術監理部門受験の為の勉強会を企画開催したが、前述した理由により場所は県

の中央付近に当たる大村市の公民館で開催した。出席者は22名でその内訳は長崎地区が8名、佐世保地区が4名、県央地区が9名、島原が1名であった。その他、総会や研修会などもほとんど最近では会員全体の利便性を考慮して県央地区の諫早や大村で開催するが多い。最近では地方の小都市でも公民館等の施設が充実しており、意外と使用料も安く利用しやすい。長崎市などは施設の数はい多いものの混んでいたり、高かったりと意外と利用し難いことが多く、今後の活動のひとつの方向と思われる。

今回の勉強会の主な目的は総合技術監理試験に関する情報交換であった。試験に関する情報は長崎という西の端では非常に遅れており、また混乱している事が今回の勉強会で判明した。この為、この点を是正することが、受験率ひいては合格率の向上につながり、そして活動の活性化にもつながるものと思われる。活動の原点はやはり情報の伝達であり、情報技術の進んだ今日に於いても顔と顔を会わせてのコミュニケーションが非常に重要で有効な手段である事を再認識させられた。

熊 本

NPO 法人「みらい有明・不知火」 の設立について

代表幹事 林 博昭（農業）

熊本地区の平成14年度上半期の技術士活動は、特定非営利活動（NPO）法人「みらい有明・不知火」と、「熊本技術士の会」の設立である。前者は有明海・八代海沿岸の地域を対象に、後者は熊本県内の地区を対象に立ちあげたもので、それぞれ6月11日と5月20日に法人登録を終了した。

地域を対象とした「みらい有明・不知火」について述べると、正会員150名、準会員27名、支援会員38社で、役員は、理事長に熊本大学滝川教授、副理事長に佐賀大学加藤教授、同じく石田大和町長（福岡県）をはじめとして、熊本大学4名、佐賀大学2名、沿岸町村長3名、生産者代表1名、幹事及び事務局としてプロジェクトチーム熊本技術センターから4名の技術士が参加している。また、顧問としては、

参議院から陣内先生、佐藤先生、そして九大名誉教授の菊池先生、戸原先生に参加をいただいた。そして、設立総会は8月5日に行った。

この法人は、『有明海・八代海における海域の自然環境・生態系の保全と、沿岸域における海岸堤防・干拓低地の国土保全に資するため、「産」、「学」連携し、知力と応用技術力を結集して調査・研究を行い、その成果を行政に政策提言すると共に、海をテーマとする交流活動を行って、子供たちの健全な育成と地域の活性化を図り、もって有明海・八代海沿岸地域全体の環境と生活基盤の安定に寄与する』ことを目的としている。

目的の達成手段としては、研究成果を行政に政策提言を行って、事業化に結びつけることに考えている。

そのためには、有明海・八代海に関するあらゆる情報を持ちより、また実態を十分調査して、実りある成果を挙げなければならない。本年度は、赤潮発生の抑制と回避に関する研究や、海面上昇に伴う海岸堤防の安全性に関わる調査と取り組む予定である。

宮 崎

産・官・学連携と技術士

あさひ あきら
朝日 輝（建設）

1. はじめに

産・官・学連携の重要性が叫ばれてかなりの年数が経過しているが、ごく一部の活動を除いて、活発化していないようである。

そこには、それぞれの立場、体制、考え方、過去に培われた組織文化や共通言語での交流不足があり、それらが壁になって自由に闊達な交流がはばまれている。技術士は、自己の技術、総合判断力、倫理観を通して地域社会に貢献する姿勢がごく自然に身についていることが基本要件であり、産・官・学連携の一翼を担うことが期待される。

2. 技術士受験講座と産・官・学連携

宮崎大学土木環境工学科のリーダーシップにより、技術士受験講座が平成14年3月16日より宮崎大学で始まった。講師、受講者とも、産、官、学で構成さ

れており、建設一般、専門科目、経験記述等に分けられて講義が行われた。さらに、各種の質疑応答が宮崎大学の土木環境工学科の出口近土助教授を中継地としてEメールにより活発に交換され、まさに高度情報通信時代のツールを活用した意見交換は、アドバイザー各人の考え方をうかがい知ることができ、大変参考になった。一方、高邁な論理を展開して、なかなか実行に移されない事よりも、出来ること、効果的と思われるものを手はじめに実行することに価値を見出す場合もある。今回のケースは、正に足元からの産・官・学の協同作業である。また、地域に開かれた大学のあり方を模索する社会実験でもあり、それぞれの立場を乗り越えて実行に移され、一定の成果を納めることができた。しかしながら、受講者の一部にある種の甘えが生じ、手取り足取り指導してくれると錯覚している受講者ができた事は、反省材料として残った。技術士の資格取得は、あくまでも、自己研鑽を基本にして、自助努力により得られるものである。今後は、さらなる創意工夫と社会実験を重ねて、足元からの産・官・学連携の望ましい方向性を探り出していく必要がある。

I

「おやじ組」のこと

石本 俊亮（建設・福岡）

週5日制は、コミュニティ形成のチャンスです。

1. 子育てをしない動物達

何年か前に、NHKの特集番組で野生のカンガルーについて紹介されたものがありました。そのカンガルーは、幼いときに親をなくし、群れのなかで何とか生き抜いてきていました。問題は、そのカンガルーが親になったときに起こりました。自分の子どもを育てることができないというものでした。同じような出来事が、動物園でも起きていると聞いています。自分が子どものとき経験していないことは、親の立場になった時に、わが子にたいしても出来ない、正確に言うと、何をしてあげれば良いか分からないということです。

最近、多数発生している幼児虐待事件でも、親として子どもにどのように接して行けばよいかわからず、力で対応してしまった親の悲惨な姿が紹介されています。断定的な事は言えませんが、昭和30年代以降の高度成長期において、物質的な豊かさを追い求める一方で、家庭や地域的なコミュニケーションが二の次になっていたのではないのでしょうか。

2. おやじ組

昨年、三女が小学校に入学たのをきっかけに、児童の父親たちで結成されている「おやじ組」に入会しました。「おやじ組」は子育てで悩み自殺という結果を招いた父子家庭への反省もあり、父親同士で意見交換を行なうことも目的に結成されたそうです。

「おやじ組」は、今年で3年目を迎えましたが、これまでは学校や地域の行事のお手伝い（警備や会場準備）程度の活動にとどまり、サロンのような意見交換の場として、年間4回の定例会を開催してきました。そのような「おやじ組」の会長という職務に、小学校PTAの副会長に就いたことで、自動的に就任することになりました。そういうことで、「おやじ組」の活動を通じて、今、求められている家庭や地域のコミュニケーションのあり方について述べさせていただきます。

3. あらたな試み

皆様もご存知のことと思いますが、本年より、ゆとり教育の一環として週5日制が導入され、これまでの教育に加えて、体験的な学習機会が、様々な施設、団体で検討、実施されています。我々「おやじ組」では、先生ではなく親が主体となって、子どもと親が学校で活動する企画として、これまでの「おやじ組」の定例会で話題に挙がっていた校内キャンプを夏休みに実施することにしました。校内利用のため、いくらかの制約はありましたが、土曜日の昼から日曜の朝食まで、子どもたちと過ごす事ができました。

このキャンプの目的は、「学校でキャンプをした」という思い出づくりの面もありましたが、「新たなコミュニケーションづくり」を重要なテーマとしました。そこで、親子や友人関係といった横の関係にとらわれず、機械的に6年生から1年生までのグループをくみ上げて縦の関係の集団で行動することを基本としました。親子も離すことにし、各グループの父兄協力者はよその親を原則としました。最初は、戸惑いもあったようですが、次第にグループとして機能しはじめ、年長者が年少者をかばう姿も見ることができました。父兄もよその子と話をして考えさせられる事もあったようです。

4. これからの活動

子どもと親が集団で活動する場を年度内にもう1回計画することにはしていますが、「自分達はそこまでしてもらっていない。今の子どもは甘やかされている」といった批判もあるかと思います。自問自答したこともあります。ただ、よく考えてみると、昔の大人達は、町内の祭りや地域の青年団のような活動を通じて、しきたりや技術を子どもに伝え、子どもは親たちの姿から、社会生活の一端を垣間見ていたように思います。

今回の活動は、子どもを共通のテーマとして、親たちがコミュニケーションを取り、情報交換により子育てを考える第1歩として貴重な機会となりました。家庭から地域へ縦の関係が成立するためには、長い年月が必要です。簡単には変わらないとおもいます。そのため、「おやじ組」としては、今後もこのような活動を地道に継続させることにしています。

Ⅱ

ラブレター

高木 茂（総合技術監理・建設・大分）

ラブレター頂きました

「ラブレター頂きました。当方の問題で迷惑をかけ申し訳無い。具体的な数字の確約は今できませんが実態に合った対応をさせていただきます。」ヤキモキして待っていた客先の支社長さんからの電話に肩の力がスーッと・・・。

この数ヶ月前にシステム開発に参入させて貰うことになり客先プロジェクトチームの機能を分担する形でスタートしましたが、上流の計画の不備や曖昧さによる後戻り業務が多発し工程遅れ、コストの激増、そして何よりもスタッフのモラルの低下が尋常でなくなり、再三プロジェクトの責任者に申し入れをおこなったのですが、「請負契約でしょ!」と、状況が改善されること無く、ズルズル業務だけが引き延ばされる事態に陥ってしまいました。

プロジェクトの特質、条件の変更、当社の対応履歴、責任範囲の限界等を整理し、このような直訴をせざるを得ない状況と心境を必死に訴えて追加代金のお願いをした結果が、冒頭の支社長からの電話でした。

30代半ばに前の会社で出先の責任者をしていた時の出来事です。あの支社長さんはもう現役を引退されているお年のはずだがお元気にされているのでしょうか？ それにしても「ラブレター」とは粹で言い得て妙な言葉を使われたものです。

真夜中のポスト

読者の皆さんの多くはラブレターを書いた経験をお持ちでしょうが、やっとの思いで書いたラブレターは全て相手に届けられたのでしょうか？

ラブレターを書くことはその成就の可能性に関わらず非常な決意が必要でして、書き始めるのは静まりかえった深夜・・・と相場が決まっていました。途中で何度も書き直し勉強ではあまり使用しない辞典を何度となく手に取り、ツボにはまれば感性が高揚した異常空間の中で一気に想いが便箋上に移植されて恋文が完成したものです。

さて、問題はこれからでして、書き終わったラ

ブレターを読み直してしまうのです。この時にはハイな感性もクールダウンされており、恥ずかしさと不安でその便箋を封筒に入れることが出来ずゴミ箱に投げ捨ててしまうことになるのです。

この解決策として私は、兎に角書き終えたラブレターは一切の見直しをせず封筒に閉じ込め、封印でもするかのように切手を舌糊にて貼り近くの郵便ポストまでダッシュ!・・・言うまでもなく布団に入っても暫くは眠りに就くことが叶いませんでした。

それにしてもダッシュの息切れする頃に月の光に浮かび上がった赤い真夜中のポストは、初恋の思い出と一緒に未だ脳裏のどこかに焼き付いているようです。

技術士論文

未だコンサルタントの仕事に縁が無く技術士資格の必要性も無かった時、唐突に時の上司から「技術士試験を受けろ」の業務命令に沿い、早速書店に参考本を漁りに行き2-3冊にざっと目を通した感想が「こんな試験受けたく無いなー!」でした。

『業務論文は何度も書き、徹底して暗記し、どの段落の書き出しの言葉は何かを記憶し等々・・・』記憶力が悪く特に暗記是最悪で、トランプの神経衰弱ゲームなんか誘われただけで頭痛に襲われる私にとっては最も可能性の無い試験のように思われたからです。

今だから言える私の技術士評は、実績の豊富さや技術レベルの高さや社会貢献度に対して与えられるものではなく、これらをバックボーンとして問題を抽出し、対策し、解決し、評価・展望ができるその人に対して与えられるもの。そこには、熱い思いや純粋さや優しき思いやりなど人間臭さが滲み出ていなければ・・・。

最近、経験論文の添削を頼まれることがあります。「この人はラブレターを沢山書いたかな?」「この人は技術語でラブレターが書けるかな?」の視点から勝手なアドバイスをすることになっています。

微かな記憶

ラブレターって何だろう？

人の心に響くコミュニケーションは大変難しく、その起点でもあり究極でもあるのがラブレターなのではないのだろうか!なんて勝手に自答してみましたが、皆さんは如何お考えでしょうか？

世の中何と無くギスギスし強い武力と潤沢な経済力と明快な論理性が幅を効かす中で、爽やかな風のようにあらゆる類のラブレターが地球上で一通でも多く書かれ届けられているであろうことを願わずにはおられません。

ところで、私はラブレターを貰った事があったのかな?・・・実はあるのです! 小学校4年生の時、

紀行

中国海南島開発計画を視る

北九州地区代表幹事 是永 逸夫
(総合技術監理・機械)

今回、6月9日から13日の5日間、日本技術士会九州支部の有志で、中国海南島の開発計画を視察する機会を得た。海南島は九州とほぼ同じ大きさで中国の最南端に位置する常夏の島であり、長江流域の開発を終えた中国が次の開発計画として力を入れている地方である。

視察の経緯は、平成11年秋に実施した技術士会九州支部の長江三峡ダム視察計画で大変お世話になった前福岡駐在中国領事呉松氏からの招聘によるものである。呉松氏は海南島のご出身で、科学技術庁国際合作処副所長として勤務されており、赴任する時期から海南島開発計画に対して、九州技術士会の視察を支部副支部長の清水先生に打診されており、小泉首相のアジアフォーラム出席を機に計画が実行されたものである。

メンバーは清水団長、阿部先生以下技術士3名と学士会員3名に添乗員を加えて8名であったが、呉松前領事が全行程同行案内していただき、有意義な視察が出来た。

海南島はハワイと同じ緯度で日本との時差がない熱帯性気候である。1988年に海南省に昇格し、石油資源や天然ガス開発でクローズアップされている西沙・南沙諸島を行政区に含む中国最大の経済特区である。

北の玄関口としての省都海口は行政・経済の中心地であり、国際空港や南端の海浜リゾート地三亜まで高速道路が整備されている。島の東半分に多くの温泉やリゾート地として優れた綺麗な海岸が点在している。西半分には水晶やチタン等の鉱物資源の産出が盛んである。中国の開放政策の目玉としての開

仲良し二人組の女の子と一緒に「これ後で読んでね」と言って手渡されました。子供心にもワクワク・ドキドキして便所に入って読んだことが微かな記憶として残っています。残念ながら内容は最後の言葉だけしか覚えていません。それは、「読んだら破って捨ててね!」でした。

発が期待されている。

海口では海南省科学技術庁を訪問し、銭倚劍副庁長以下建設庁や国際交流処長と約2時間に亘って座談会を行った。海南省としては九州各県からの交流は多いが更に緊密にやりたい。今年は技術士会と良い関係を作りたいと熱心である。

視察は、海口で座談会、「五公祠」見物の後、高速道路を2.5H南下して、「博鳌海岸アジアフォーラム」会場見学。更に1.5H南下して興隆温泉ホテルに宿泊。中国の温泉は温泉プール形式で全員水着着用して遊んでいる。

翌日は、また車で1.5Hの内陸部にある「保亭七仙嶺温泉度假村」の温泉センターを見学。山中に中国式温泉の他に日本流の露天風呂も建設中であった。他の設備から遠く道路も整備されていないのが残念であった。更に2.5Hで南端の三亜に到着。すばらしい海浜リゾートであり、海南観光の中核になる地区である。自然を残した形での開発が至上命令との事であり将来が楽しみである。また、ここでは海岸リゾートの他に、鑑真や空海が漂着した地に大雲寺の様式を模して、巨大な「南山仏教文化苑」を建設中である。

観光設備は政府主導で個々の対象を大規模に建設中であり、経済成長により豊かになった人民大衆がレジャーを求めて海南島に押し寄せるのはそれほど遠い先のことではないと考える。

現状の開発計画に関しては、地域が広大過ぎるので、各地区の特徴を強調した宣伝が必要である。又、経済発展区域と観光開発区域を明確にする必要があると考える。また観光やレジャーを楽しむ為の周辺整備やアクセスの整備が不可欠である。

帰国は三亜から広州経由の便であった。アクセスの不便さを感じながら視察を終えたが、中国の凄まじいばかりの開発、経済発展の息吹を感じた旅であった。九月の呉松前領事の来日を待って、更に交流を深めるべく活動を進める所存である。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段:連絡先/下段:勤務先) 〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉	
北九州	正会員	清水 健一	生物工学	〒800-0022 北九州市門司区大里東3-5-24-302 協和発酵工業(株)門司工場	☎(090)2518-9488 FAX(093)391-3420
北九州	正会員	副田眞日止	化学	〒811-4303 福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀97-8 新日鉄化学(株)総合研究所	☎・FAX(093)293-2659 ☎(093)884-1628 FAX(093)884-1923
宮崎	正会員	浜川 浩一	建設	〒880-0917 宮崎市城ヶ崎3-21-4 宮崎県建設技術センター	☎(0985)50-8288 ☎(0985)24-1111
長崎	正会員	千々布義朗	環境	〒852-8023 長崎市若草町5-23 長崎県民生活環境部自然保護課	☎(095)843-2799 ☎(095)826-6715 FAX(095)820-7147
宮崎	正会員	大崎 睦男	農業	〒885-0086 都城市久保原町6-21 (株)城西エンジニアリング	☎(0986)21-0101 FAX(0986)21-0201
宮崎	正会員	田代 秀雄	農業	〒880-0212 宮崎県宮崎郡佐土原町下那珂4518-421 太陽コンサルタンツ(株)宮崎営業所	☎・FAX(0985)73-6816 ☎(0985)62-7320 FAX(0985)62-7321
福岡	正会員	柏木 良一	建設	〒811-2103 福岡県粕屋郡宇美町四王寺坂2-6-10 (有)柏木エンジニア	☎・FAX(092)932-5629 ☎(092)724-2131 FAX(092)724-2132
福岡	正会員	岡村 正紀	環境	〒813-0003 福岡市東区香住ヶ丘5-22-9 財九州環境管理協会	☎・FAX(092)671-0721 ☎(092)662-0410 FAX(092)662-0990
福岡	正会員	曲尾 晃	建設	〒814-0103 福岡市城南区鳥飼5-20-18-318 (株)片平エンジニアリング福岡支店	☎・FAX(092)847-3572 ☎(092)473-5855 FAX(092)473-5857
北九州	正会員	堀内 満喜	金属	〒808-0004 北九州市若松区西小石町6-13 日立金属(株)若松工場	☎(093)751-5284 ☎(093)761-5134 FAX(093)761-5332
福岡	正会員	武田 浩卓	建設	〒812-0016 福岡市博多区博多駅前南4-3-1博多いわいビル1001 (株)オリエンタルコンサルタンツ九州支社	☎(092)412-3939 ☎(092)411-6209 FAX(092)411-3086
福岡	正会員	竹内 研	建設	〒811-1211 福岡県筑紫郡那珂川町今光5-9 (株)片平エンジニアリング福岡支店	☎・FAX(092)954-3710 ☎(092)473-5855 FAX(092)473-5857
宮崎	正会員	白浜 隆寛	農業	〒880-0917 宮崎市城ヶ崎1-5-6 (株)白浜測量設計	☎(0985)51-8625 ☎(0985)53-5985 FAX(0985)51-8625
北九州	正会員	垣迫 裕俊	建設総合 技術管理	〒802-0983 北九州市小倉南区志徳2-4-21-104 北九州市環境局	☎・FAX(093)962-8342 ☎(093)582-8342 FAX(093)962-8342
鹿児島	正会員	有村 実弘	建設	〒890-0056 鹿児島市下荒田3-10-5 (株)サタコンサルタンツ	☎・FAX(099)258-1522 ☎(099)250-7360 FAX(099)250-7380
福岡	正会員	甲斐 辰美	建設	〒818-0121 太宰府市青山1-3-10 グリーン・コンサルタント(株)九州営業所	☎・FAX(092)924-6468 ☎(092)733-6055 FAX(092)781-3673
宮崎	正会員	今村 安美	建設	〒885-0003 都城市高木町4658 正栄技術コンサルタント(株)	☎・FAX(0986)38-0420 ☎(0986)23-6203 FAX(0986)23-8979
長崎	正会員	箴嶋 秀利	化学	〒851-2105 長崎県西彼杵郡時津町浦郷31-9 西部ガス(株)長崎LNG基地建設部	☎・FAX(095)881-2364 ☎(095)860-0776 FAX(095)860-0876
鹿児島	正会員	中尾五十三	林業	〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯4-29-2 (社)鹿児島県治山林道協会	☎(099)265-6757 ☎(099)222-2829 FAX(099)227-2175
福岡	正会員	野原 一秀	農業	〒811-0202 福岡市東区和白3-28-3-501 (株)日設コンサルタント	☎・FAX(092)608-2304 ☎(092)262-2377 FAX(092)262-2304
福岡	正会員	松岡 俊治	建設	〒810-8511 福岡市中央区平尾2-20-18サバ 大成建設(株)九州支店	☎・FAX(092)524-7049 ☎(092)771-1444 FAX(092)741-4687
長崎	正会員	大山 豪	林業	〒856-0046 大村市木場1丁目1027-5 長崎県庁農林部山地災害対策室	☎(0957)53-8804 ☎(095)822-3545 FAX(095)821-1255
大分	正会員	後藤 勇	建設	〒870-0851 大分市大石町5-3-1 (株)九建設計土木部	☎(097)549-2054 ☎(097)586-0086 FAX(097)586-0097
福岡	正会員	足立 俊美	建設	〒816-0847 春日市大土居2丁目111 西鉄シー・イー・コンサルタント(株)	☎・FAX(092)501-8660 ☎(092)511-2771 FAX(092)511-2461
福岡	正会員	内藤 俊一	建設	〒816-0813 春日市惣利3丁目138 西鉄シー・イー・コンサルタント(株)	☎・FAX(092)596-4816 ☎(092)511-2771 FAX(092)511-2461
宮崎	正会員	徳見 和男	水道	〒880-0951 宮崎市大塚町池ノ内1127-49 (株)宮崎水道コンサルタント	☎・FAX(0985)47-5299 ☎(0985)47-6495 FAX(0985)48-1366

熊本	正会員	堺 美智雄	建 設	：〒869-4702 熊本県八代郡千丁町472-6 (株)十八測量設計	☎(0965)383-1800	☎・FAX(0965)46-0242 FAX(096)385-5352
福岡	正会員	田中 厚一	経営工学	：〒811-4163 宗像市自由ヶ丘10丁目16-14 田中技術士事務所		☎(0940)33-8062
福岡	正会員	阪本 紀博	建 設	：〒810-0032 福岡市中央区輝国2丁目16-30-504 (株)総合エンジニアリング福岡支店	☎(092)472-1948	☎・FAX(092)761-6875 FAX(092)472-1081
大分	正会員	早野 総和	化 学	：〒870-0242 大分市角子南2-3-58ビューラーB203 日本文理大学工学部環境マテリアル学科	☎(097)592-1600	☎・FAX(097)528-8537 FAX(097)593-2071
熊本	正会員	長友 光朗	建 設	：〒861-0501 山鹿市山鹿1437-2 (株)グランテック	☎(096)387-6592	☎(0968)43-7150 FAX(096)387-6593
長崎	正会員	住田 裕志	建 設	：〒854-0045 諫早市新道町167-101 五洋建設(株)九州支店諫早干拓工事事務所	☎(0957)32-5453	☎・FAX(0957)24-4375 FAX(0957)32-5495
熊本	正会員	實取 一也	農 業	：〒861-2233 熊本県益城郡益城町大字惣領1576~2 (株)ピー・エス九州支店 熊本営業所	☎(096)382-5570	☎・FAX(096)286-7314 FAX(096)381-4884
長崎	正会員	吉岡 昌敏	農 業	：〒852-8144 長崎市女の都1丁目1483-10 藤永地建(株)長崎支社	☎(0957)26-8033	☎・FAX(095)843-1665 FAX(0957)26-7561
北九州	正会員	小柳 嗣雄	化学・総合 技術監理	：〒807-0844 北九州市八幡西区春日台1-16-10 解媒化成工業(株)	☎(093)751-9825	☎・FAX(093)612-0191 FAX(093)751-9825
熊本	正会員	宮津 高公	農 業	：〒862-0925 熊本市保田窪5-10-72 アジアプランニング(株)	☎(096)372-6440	☎(096)387-3286 FAX(096)363-6809
大分	正会員	高橋 浩一	建 設	：〒870-1107 大分市敷戸駅北町4-6 (勸)大分県建設技術センター	☎(097)552-3255	☎・FAX(097)568-9410 FAX(097)552-3079
福岡	正会員	古賀 照久	環境建設	：〒816-0087 福岡市博多区三筑1-9-5 プレミール三筑303 (勸)九州環境管理協会	☎(092)662-0410	☎・FAX(092)582-6173 FAX(092)662-0424
福岡	正会員	関口 准司	衛生工学	：〒815-0075 福岡市南区長丘1-1-1 サングレート長丘703 (株)川崎技研	☎(092)551-2834	☎(090)7457-3431 FAX(092)551-1661
福岡	正会員	福石 国丸	建 設	：〒816-0961 大野城市緑ヶ丘1-5-3 日本建設コンサルタント(株)九州支店	☎(092)411-5914	☎(092)596-4462 FAX(092)474-1610
福岡	正会員	中辻 和秋	電気電子	：〒819-0001 福岡市西区小戸1-19-3-204号 東光電気工事(株)九州支社	☎(092)522-2111	☎・FAX(092)862-6320 FAX(092)524-1409
福岡	正会員	杵島 亮治	水 道	：〒819-0167 福岡市西区今宿3-11-6-105 国際水道コンサルタント(株)福岡事務所	☎(092)471-6851	☎(092)807-1172 FAX(092)471-6951
福岡	正会員	南里 隆司	建 設	：〒811-0205 福岡市東区奈多団地25~102		☎・FAX(092)608-1399
福岡	正会員	三溝 達也	建 設	：〒819-0052 福岡市西区下山門1-2-10 プラムハイツII505 (株)鴻池組	☎(092)721-5775	☎・FAX(092)885-7208 FAX(092)721-5054
福岡	正会員	平山 公一	情報工学	：〒814-0161 福岡市早良区飯倉5-21-18-403 三菱電機(株)福岡工場		☎・FAX(092)862-7741 ☎(092)805-3587
福岡	正会員	白石 隆俊	建 設	：〒838-0101 小郡市美鈴が丘4-5-2 パシフィックコンサルタンツ(株)		☎(092)885-5005
福岡	正会員	江副章之助	建 設	：〒812-0018 福岡市博多区住吉4-3-2 博多エイトビル 日本工営(株)福岡支店	☎(092)475-7131	FAX(092)475-7135
福岡	正会員	長崎 均	環境、水産、 建 設	：〒813-0005 福岡市東区御島崎2-16-24-710 日本工営(株)福岡支店	☎(092)475-7556	☎・FAX(092)681-0727 FAX(092)475-4330
福岡	正会員	川崎 巧	建 設	：〒810-0005 福岡市中央区清川3-8-17アーバンパレス天神南1205 (株)長大福岡支社計画技術部	☎(092)472-3952	☎(092)525-2030 FAX(092)472-4039
福岡	正会員	藤内 誠一	建設・農業	：〒810-0062 福岡市中央区荒戸2-4-33-103 (株)森緑地設計事務所	☎(092)633-3101	☎(092)733-1278 FAX(092)633-3102
北九州	準会員	山下 修二	建 設	：〒803-0838 北九州市小倉北区高見台4-1-204 板井築炉(株)	☎(093)581-3853	☎・FAX(093)581-5047 FAX(093)581-3318
福岡	準会員	安達 昌平	建 設	：〒814-0022 福岡市早良区原4-3-1 アダージュ原参番館 (株)井上エンジニアリング九州支店	☎(0942)87-3371	☎・FAX(092)831-5434 FAX(0942)87-3371
大分	準会員	平佐俊一朗	環 境	：〒876-1106 佐伯市大字戸穴409 太平洋セメント(株)佐伯工場	☎(0972)27-8815	☎(0972)27-6322 FAX(0972)27-8371
福岡	準会員	田中 秀樹	建 設	：〒810-0033 福岡市中央区小笹5-22-37 (株)建設技術研究所		☎(092)531-8406 ☎(092)714-6226
福岡	準会員	馬場 亮	建 設	：〒836-0844 大牟田市浄真町85コアマンション浄真町403 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局大牟田鉄道建設所	☎(0944)59-6360	☎・FAX(0944)57-4222 FAX(0944)59-6362

福岡 準会員 福塚康三郎 応用理学：〒819-0015 福岡市西区愛宕 4-4-19-103 ☎(092)885-9799
サンコーコンサルタント九州支店 ☎(092)271-2905 FAX(092)262-1145

☆九州技術士センター 入会

宮崎 正会員 谷之木清信 農 業：〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘 4-8-3 ☎・FAX(0985)53-8436
宮崎県土地改良事業団体連合会 ☎(0985)53-8436 FAX(0985)53-8436

宮崎 正会員 湯浅 徹 農 業：〒880-0905 宮崎市中村西 1-5-10 ☎(0985)54-8216
宮崎県土地改良事業団体連合会 ☎(0985)24-3022 FAX(0985)29-9107

長崎 正会員 葭谷 武司 応用理学：〒851-2126 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷1221-73 ☎(095)883-6876
総合技術監理 (株)親和テクノ ☎(0956)41-4141 FAX(0956)41-4300

長崎 正会員 安藤 範仁 林 業：〒868-0922 佐世保市鹿子前町782-4 エスポワール鹿子前Ⅱ201 ☎(0956)28-3961
国土防災技術(株) ☎(0956)22-0148 FAX(0956)22-4429

福岡 正会員 江藤 光博 建 設：〒811-3425 宗像市日の里 8-18-18 ☎(0940)36-1368
(株)竹中土木九州支店 ☎(092)711-1831 FAX(092)711-7940

大分 正会員 川野 一彦 建 設：〒870-0270 大分市望みが丘29-4 ☎(097)527-5783
九州建設コンサルタント(株) ☎(097)551-6211 FAX(097)556-3677

宮崎 正会員 新村 和規 建 設：〒880-0864 宮崎市吾妻町164グランビューあづま901号 ☎・FAX(0985)35-5372
外山測量設計コンサルタント ☎(0985)73-7511 FAX(0985)73-7512

福岡 正会員 新山 庄一 建 設：〒814-0031 福岡市早良区南庄 6-5-8 コーアツ工業室見社員寮 ☎(092)845-3743
コーアツ工業(株)福岡支店 ☎(092)711-0739 FAX(092)731-7888

福岡 正会員 瀬戸口忠臣 建 設：〒815-0042 福岡市南区若久 2-15-8 ☎(092)552-2158
日本鋼管(株)九州支社 ☎(092)632-1518

宮崎 正会員 阿多 寛 農 業：〒886-0005 小林市大字南西方6411 ☎(0984)27-2026
小林市役所建設課 ☎(0984)23-0311 FAX(0984)23-0766

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区) (区分) (氏名) (部門) (変更)

熊本 正会員 島谷 竜一 建 設 連：〒886-0856 八代市通町 4-9 ダイヤモンド通町502号
勤：〒886-0824 八代市日置町女夫木4767
(株)大林組新八代JV工事事務所

福岡 正会員 田野慎一郎 建 設 連：〒812-0063 福岡市東区原田 1-26-1 フェリーチ原田301号
勤：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1-1-25-3 F
(株)青木建設九州支店 ☎(092)431-7512 FAX(092)472-1740

福岡 正会員 神谷 昌秀 機 械 連：〒818-0121 太宰府市青山 2-7-29 ☎(092)921-6369
勤：〒810-0001 福岡市中央区天神 1-1-1 アクロス福岡 9 F
(勤)福岡県産業科学技術振興財団 ☎(092)725-2781

福岡 正会員 園田 宣昭 建 設 連：〒815-0041 福岡市南区野間 3-15-24国土交通省中村宿舎 1-22
勤：〒812-0013 福岡市博多区博多区博多駅東 2-10-7
国土交通省九州地方整備局道路管理課 ☎(092)471-6331

福岡 正会員 橋本 和繁 建 設 連：〒814-0104 福岡市城南区別府 1丁目 5-25エムⅡ102号

福岡 正会員 原 茂恭 水 道 連：〒816-0861 春日市岡本 5丁目116 ☎(092)572-3183

大分 正会員 永川 勝久 応用理学 連：〒870-0822 大分市大道町 2-6-10-102 ☎(097)545-1667
勤：〒870-0033 大分市千代町 1-2-35鈴木Ⅱビル 2 F
基礎地盤コンサルタンツ(株)大分事務所 ☎(097)538-9038 FAX(097)538-9035

福岡 正会員 池田 昭弥 建 設 連：〒803-0812 北九州市小倉北区室町 2-11-19有豊ビル 8 F
勤：九州テクノリサーチ(株) ☎(093)561-2871 FAX(093)561-8303

福岡 正会員 神谷誠一郎 建 設 勤：〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 2-1-82電気ビル別階 7 F
(株)九州アイ・エス・オー審査登録機構 ☎(092)720-5131 FAX(092)720-5132

福岡 正会員 森 喜男 建 設 勤：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1-17-25
建設サービス(株) ☎(092)481-0512 FAX(092)475-5891

熊本 正会員 堀田 信俊 建 設 連：〒869-1101 熊本県菊池郡菊陽町大字津久礼2340-6 ☎(096)232-3273

福岡 正会員 加治屋義信 建 設 勤：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-10-7
九州地方整備局河川部 ☎(092)471-6331 FAX(092)476-3469

鹿児島 正会員 内田 学 衛生工学 連：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町25-8-303 ☎(099)252-6157
勤：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 1-1
(株)九電工鹿児島支店 ☎(099)256-2166

佐賀	正会員	大串 正 建	設 勤：〒849-0902 佐賀市久保泉町大字上和泉3114-3 西日本総合コンサルタント(株) ☎(0952)98-2141 FAX(0952)98-2970
熊本	正会員	堤 康博 建	設 連：〒862-0901 熊本市東町 3-12-1-202 ☎(096)367-5756
福岡	正会員	若松 基夫 建	設 勤：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-6-28 水工技研(株) ☎(092)472-2734 FAX(092)472-1387
長崎	正会員	松本 直弥 応用理学	勤：〒858-0924 長崎市星和台町24-18 松本技術士事務所 ☎(0956)28-4384
福岡	正会員	山本 隆利 建	設 連：〒811-4171 宗像市葉山 1-20-5 勤：〒830-8567 久留米市高野 1-2-1 九州地方整備局筑後川工事事務所 ☎(0942)33-9131 FAX(0942)33-0186
福岡	正会員	阿部 静夫 水	道 勤：〒810-8620 福岡市中央区天神 1-8-1 福岡市下水道局計画課長 ☎(092)711-4514 FAX(092)711-1875
大分	正会員	光岡 毅 建	設 勤：〒870-0911 大分市新貝12-51 携帯(090)5480-0554 九州建設コンサルタント(株) ☎(097)551-6211 FAX(097)551-3876
北九州	正会員	吉田 秀雄 建	設 連：〒807-0781 北九州市八幡西区浅川学園台 4-1-11 ☎(093)691-5502
北九州	正会員	篠崎 照秀 水	道 勤：〒802-0072 北九州市東篠崎 3-1-1 福岡北九州高速道路公社(理事) ☎(093)922-6811 FAX(093)922-6816
福岡	正会員	森 正明 建	設 連：〒818-0051 筑紫野市二日市中央 2-8-2-602 ☎(092)929-0619
福岡	正会員	林 正治 水	道 勤：〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-9-3 博多区地域整理部長 ☎(092)441-2131(代)
福岡	準会員	渡邊 浩平 建	設 勤：〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 4-13-27-418 (株)九州建設技術管理協会
福岡	正会員	清水 博和 建	設 勤：〒849-0937 佐賀市鍋島 4-10-6 国際技術コンサルタント(株) ☎(0952)31-3653 FAX(0952)30-1925
福岡	正会員	小林 孝洋 建	設 勤：〒830-0055 久留米市上津 1-24-13 株式会社 セイコー ☎(0942)22-5850 FAX(0942)22-5852
福岡	正会員	森 弘光 建	設 勤：〒814-0022 福岡市早良区原 2-16-7 基礎地盤コンサルタント(株)九州支社 ☎(092)831-2511 FAX(092)822-2393
福岡	正会員	田中 義人 建	設 勤：〒891-0103 鹿児島市皇徳寺台 3-39-11 九州電技開発(株)南九州営業所 ☎・FAX(099)275-2982

トピックス

動きだした支部 IT 化推進計画

九州支部では、平成14年度の事業計画に「インターネットによる広報・連絡システムの樹立」が加えられた。これは“これからの技術士の情報活動は、インターネットを自由自在に駆使する体制にしていこう”ということである。

つまり、まず支部の情報連絡は、現在FAXの一斉通信が行われているが、将来はEメール通信に移していこう。また会員を含めた一般への広報にはホームページを充実しよう。会員への情報伝達にはメールマガジンも考えよう。さらに会議や打合せにはイントラネットを活用しよう。等々。

またこのためには、会員みんながこのシステムに乗れるように、会員のIT化を支援するのも大切。それにはパソコン勉強会をやろう。安いパソコンの入手を援助しよう。それにトラブル時のアフターケアも必要。などと課題がたくさんでくる。

そこでこの計画を進めるため、支部では今度「IT

化推進委員会」を立ち上げるようになった。そしてこの初めての話し合いが9月28日に開かれる。メンバーは各地区代表幹事推薦の方を中心にして情報化に強い方々12名。それにアドバイザーとして支部長、総務、広報委員長が加わる。取りまとめ役は大里信義氏（総合技術監理・化学、北九州）で、これからの事業のあり方、進め方、特に手始めの仕事として考えられる会員意識のアンケート調査の仕方をどうするかなどが協議される。

工業所有権セミナー開催（宮崎）

九州経済産業局主催、日本技術士会九州支部、宮崎県技術士会共催で、技術士対象の工業所有権セミナーが開催される。日時は平成14年10月17日（木）14時～16時。会場は宮崎地域職業訓練センター。講師は（有）創造本舗代表桂勤氏。テーマは「特許戦略とビジネスプラン～新事業の推進力～」参加費は無料。CPD 研修対応。なお技術士を対象とする九州経済産業局主催のセミナーは九州では始めてで、佐賀、北九州地区でも企画中である。〔広報委〕

御協力いただいている 賛 助 会 員

.....〔福岡〕.....
 日本総合コンサルタント(株)九州支店
 (株)久栄総合コンサルタント
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州事業部
 (株)ダイヤコンサルタント 西日本支社
 福岡支店
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント 九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧エンジニアリング(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 富洋設計(株)九州支社
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 日本海洋コンサルタント(株)
 九州事務所
 (株)サンコンサル
 (株)橋梁コンサルタント 福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支社
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 基礎地盤コンサルタンツ(株)九州支社
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コントラクト(株)
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)
 九州環境技術研究所
 西日本技術開発(株)

(株)富士ピーエス
 日本技術開発(株)
 大和コンサル(株)
 アジアエンジニアリング(株)
〔北九州〕.....
 日本航測(株)
 大村技術士事務所
 (株)九州設計事務所
 九和設計(株)
 (株)押川測量設計
 (株)都市開発コンサルタント
 (株)松尾設計
 (株)酒見設計
 (株)太平設計
 冷牟田設計コンサルタント(株)
 山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部
 (株)安川電機
 (株)中村測建事務所
 環境テクノス(株)
〔佐賀〕.....
 (株)精工コンサルタント
 新九州測量設計(株)
 日本建設技術(株)
 (株)九州構造設計
 新栄地研(株)
 九州技術開発(株)
〔長崎〕.....
 大栄開発(株)
 (株)実光測量設計
 西日本菱重興産(株)
 太洋技研(株)
 (株)親和テクノ
 扇精光(株)
 (株)新栄設計事務所
〔熊本〕.....
 (株)九州開発エンジニアリング
 アジアプランニング(株)
〔大分〕.....
 佐伯調査測量設計(株)
 松本技術コンサルタント(株)
 協同エンジニアリング(株)
 (株)日建コンサルタント
 東亜コンサルタント(株)
 九州特殊土木(株)
 大洋測量設計(株)
 九州建設コンサルタント(株)
 西日本コンサルタント(株)

南武測量設計(株)
 東洋測量設計(株)
 九建設(株)
 日進コンサルタント(株)
 ダイエーコンサルタント(株)
〔宮崎〕.....
 (株)弓場水工コンサルタント
 (株)ロードリバーコンサルタント
 (株)ケイディエム
 (株)親協
 南日本総合コンサルタント(株)
 (株)宮崎産業開発
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (株)共和コンサルタンツ
 (有)福島測量設計調査事務所
 九州工営(株)
 (有)久保測量設計コンサルタント
 正栄技術コンサルタント(株)
 (株)東九州コンサルタント
 (有)日豊測量設計事務所
 日測コンサルタント(株)
 (株)水理設計
 (株)ダイワコンサルタント
 (株)白浜測量設計
 (株)杉田測量設計コンサルタント
 (株)ジオセンター M
 南興測量設計(株)
 (株)アップス
 (有)カツキ技術士事務所
 (株)共同技術コンサルタント
 (株)国土開発コンサルタント
 (株)外山測量設計コンサルタント
 (株)宮崎水道コンサルタント
 (株)都城技建コンサルタント
 (株)宮崎まちづくり計画
 (株)第一テクノコンサルタンツ
〔鹿児島〕.....
 中央テクノ(株)
 朝日開発コンサルタンツ(株)
 (株)久永コンサルタント
 コーアツ工業(株)
 大協(株)
 新和技術コンサルタント(株)
 (株)中村測量設計
 (株)日峰測地
 (株)大紀造園設計事務所
 (株)建設技術コンサルタンツ

「CPD（A部門：4）の集中研修」が 開かれます

支部 CPD 委員会では、今年度から、土曜日に A 部門の集中研修（6 時間）を年 4 回開催することになりました。この集約は、CPD 研修の効率向上を目指し、また“出かけ易い時にまとめて、それなら遠いところでも出ていける”というご要望にお応えしたものです。

この第一回の研修が開かれます。

テーマ：A 部門：4 技術動向

情報技術（IT）特集

日 時：平成14年10月26日（土）10：00～17：00

会 場：福岡商工会議所 505号室（福岡市博多区博多駅前2-9-28、JR 博多駅から北へ徒歩

10分、地下鉄祇園駅から徒歩5分）

研修内容と講師（CPD 認定 6 単位）：

① IT 革命の流れと展望

田中卓史氏（福岡工業大学情報化主任教授工博）

② 中小企業の IT 化

松尾一也氏（中小企業診断士〔情報部門〕）

③〔検討中〕

濱田祐司氏（中小企業大学飯塚校講師・技術士補
〔経営工学〕中小企業診断士〔情報部門〕）

④〔交渉中〕

参加費：3,000円（当日徴収）

申込み：10月15日（火）まで九州支部宛 FAX。

部門、氏名、住所、電話番号記載のこと。

なお次回のこの集中研修は平成15年1月18日（土）に予定されています。予め日程を調整しておかれてはいかがでしょうか。（広報委）

会誌“技術士”最近の主要目次

平成14年 6 月号

- ・巻頭言 リニア開発を振り返って／関秋生
- ・ミニ特集「循環型社会実現への取組」
循環型社会形成に向けて／須賀田正春
循環型社会と容器包装／飯田喜哉
家電リサイクル法施行1年後の光と影／荒野喆也
環境保全対策が急進している建設業界／野村亨
バイオマスーその廃棄物の利用をめぐるー／木崎秀一
- ・APEC エンジニアの登録について／長惇夫

平成14年 7 月号

- ・巻頭言 技術立国の担い手たるべく技術士に／長谷川邦夫
- ・気候穏和による環境循環型都市の創造／太田立男
- ・小型高速旅客船用個別式座席の提案／福谷光雄
- ・ミャンマー、ベトナム技術士調査報告／堀内純夫
- ・近畿支部主催セミナー「都市災害に備える技術者たち」／若林直樹他
- ・技術士の地位向上を図る／児島喜才良

平成14年 8 月号

- ・巻頭言 印刷業界のデジタル化対応と資格制度／山内亮一
- ・輸出プラントの総合技術監理／本岡昇
- ・ライフサイクルアセスメントによる環境への影響

評価／高木三則

- ・地方技術士における合意形成の一手法ーウェブ頁開設上の試みー／菅井敏郎・岡田昌康

編集後記

この号の原稿は、手書きは会員ニュースだけ。あとは、全部 E メール添付か FD でいただきました。それをそのまま FD 1 枚にまとめて出稿します。工場では文字打ち込みが要らなくなり、校正も簡単。印刷期間が三分の二になりました。IT のお蔭と思います。そのうちメルマガにすれば、印刷も要らなくなる・・・との思いもよぎります。もっとも、末代まで永くながく遣り読まれる文書の値打ちは、そう簡単には消えないでしょう。「技術士だより」は永遠に不滅です。これは誰かの言葉でしたね。（完戸）

発 行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail：engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL：

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎/FAX(092)432-4443

印 刷：(株)川島弘文社